

職員による自己評価

A環境面

- ・開室前には、スタッフ全員でアルコール消毒も含めて清掃活動を行っている。
- ・利用者同士の関係も活動に支障のないよう計画されている。

B利用者への支援内容

- ・支援内容についての成果が表れているかどうかについては、見えない部分もあり分かりづらいが、ニーズに答えようと利用者に合わせて支援を行っている。

C関係機関との連携

- ・利用者によって、学校や他機関との連携を行っており、その情報を保護者と十分に共有できていると感じている。

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・活動内容やその成果を知らせることはほぼできており、その際に保護者からの情報も得ることで支援に活かしている。

E非常時対応

- ・個人情報管理や虐待・ヒヤリハットに関しては特に気を付けて対応している。
- ・通所時の危険個所についてはあまり把握されていない。

保護者による評価

A環境面

- ・教室は整理整頓され、気持ちのよい環境になっていると概ね捉えられている。
- ・スタッフ数や他の利用者との関係は概ね配慮されていると感じている。

B利用者への支援内容

- ・学習・余暇活動ともに利用者や保護者のニーズに応える支援ができています。
- ・おやつや遊びができるカフェコーナーのある意義についても感じている。

C関係機関との連携

- ・学校等関係機関との連携については良く分からないと感じている。

D事業所からの情報発信

- ・保護者面談では必要な話し合いができ、日々の活動後には十分な報告ができていますと感じている。ホームページについては良く分からないと感じている。

E非常時対応

- ・緊急時対応訓練の理解が高い。
- ・災害時緊急連絡先の報告や通所時の危険個所の確認等、ほとんどの保護者が理解し対応している。

事業所内での分析

【共通点】

- ・十分な清掃が行われた環境でスタッフや利用者の配置についても配慮がされている。
- ・個別の活動やカフェコーナーでの支援が保護者にも受け入れられている。
- ・利用者スタッフ間の面談や活動報告など、直接関わる支援はよくできている。
- ・安全に関する項目については、概ね評価が高かった。

【相違点】

- ・各活動を通しての支援の成果が家庭や学校で現れているかについて、スタッフは目に見えない部分であるため不確かであるのに対して、保護者は表れていると感じている。
- ・学校等関係機関との連携について、スタッフは必要な利用者に対して十分できていると感じているが、保護者は連携について良く分からないと感じている。
- ・通所時の危険個所について、スタッフの認識は低い、保護者は利用者と一緒に確認するなどしてよく理解している。

分析・検証してみて

事業所の強み

- ・利用者のニーズに合わせて活動内容を考え1対1の個別支援を行う。
- ・各年齢、個性に対応できるスタッフがいるため、そのスタッフがそれぞれの力を発揮することができる。
- ・カフェコーナーがあること。
- ・レクタス相談支援室があること。
- ・様々な分野の活動の充実
- ・自立通所ができる立地場所。

事業所の改善点

- ・各活動の支援の成果が表れているかについて、スタッフ自身を知る機会を持つようにする。
- ・学校等関係機関との連携について、保護者が必要と感じた場合に対応できるようにする。
- ・通所時の危険個所については、保護者の情報も活かしながら、スタッフ全員が周知できるようにする。

事業所の改善への取り組み

- ・スタッフが支援の成果を知ることができるように、保護者への活動報告時に様子を尋ねたり、保護者面談時の内容をスタッフに伝えたりしていきたい。
- ・全ての利用者と学校等関係機関との連携は難しいが、相談支援室やスクールソーシャルワーカーなどを通して必要な場合に連携できるようにしたい。
- ・通所時の危険個所は、保護者からの情報も活かしながら、教室近辺の地図に記録したり教室内での研修会で実際に出掛けて確かめたりして周知する。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

BCP作成に向けて話し合った際、何か大事が起こった時に大切なのは保護者との信頼関係だと強く感じた。昨年度の評価では、保護者のカフェコーナーに対する意識は低く、重要性が伝えきれていなかった。今年度は常に役割や様子を伝えるようにした結果、昨年度よりも評価が高くなった。こちらの働きかけに対して、保護者の気持ちは大きく変化したことが分かる。今回の評価結果もしっかりと受け止めて改善していくことで、これまで以上により良い信頼関係が継続していくようにしたいと改めて思った。

事業所名 レクタス放課後等デイサービス都筑ふれあいの丘教室

担当者 松田 いづみ